

# - ち - の - を - 編 - む -

2017年2月11日(土・祝)  
会場: 荒神の民家(茅野市運動公園近く)

ゲスト

## 倉石智典

Tomonori KURASHI  
株式会社MYROOM代表

1973年長野市生まれ。長野高校卒業。慶応大学総合政策学部卒業。観光業、都市計画業、不動産業、建築業を経て、2010年に現在の会社を設立。空き家の仲介、リノベーションを専門とする。長野では「門前暮らしのすすめ」と題して、毎月「空き家見学会」を開催。県内外から参加者が訪れ、街歩きをしながら「空き家」を案内。まちなかの空き家を「リノベーション」して、新しい利用者とマッチングし、まちに賑わいをつくっている。

# 第3回

## 「まちづくり」から「まち使い」へ

(ゲストトークより)

善光寺、門前町の不動産屋。おもしろい空き家を見つけたりリノベーションしている。「まちづくり」と言っている人はだれもいない。それより自分がやりたいことを好きにやって、街を使わせてもらっているという感覚がある。にぎやかな時代もあったけれど郊外化で10年前はこの街も終わりだとあきらめられていた。大きな青写真を描いたわけではなく、好き勝手にできることからばらばらとやり始めたところからは、街の形は変わっていないのだけれど、使い方や関わり方で少しずつ変わっていったような感覚がある。空き家は問題ではなく資源。「古い」「寒い」、でも使い方の手段がいろいろ増え、違う価値観でとらえることもできる。きちんと計画して整備していくまちづくりの時代から、どうやって使いこなしていくかの「まち使い」が始まっている。現場で使いたい人が動き始めたところを下からサポートして使いこなしていく時代。空き家は困ったものではなく街並みをつくってきた文化。適正管理と有効活用二本立てが大事。それぞれの地域で地理と歴史と文化のある建物が集積しているのを、ただ壊してしまうのはもったいない。



## 「好き」から気軽に何かを始めよう

(参加者のクロストークより)

**八木** リノベーション＝即効性あるものと、新しくつくる＝長いスパンで見えるもの、その間をどう取り持つかが自分自身の課題だと思っている。

**三浦** 茅野はストリートに密集しているのではなく点々とポイントがあるようなエリア。なにか面白さは？

**倉石** 地域によってイメージの仕方は変わる。建物から入るか、そのまわりの地域から入るか。まずは街歩きを試みたい。

**参加者** 生まれも育ちも茅野。茅野が大好きでゲストハウスをやりたい。物件探したり街を歩いたり、若い人と出会って話を聞くとあきらめている。ワクワクすること、チャレンジすることにハードルが高い感じがある。自分の興味で小さくでもやってみたら、というところを聞かせてもらってよかった。まずは自分たちがやってみるところかな、と思った。

**三浦** 資格や専門性は必要なく「好き」からやってみるのが講座の通底するテーマ。「気軽に何か始めよう」というのが一番のねらい。リアルな現象として始まるのが今回の目的。

